令和４年度病床機能報告結果に基づく各地域の病床機能の過不足状況

構想区域	病床機能区分	2022(R04)年度病床機能報告結果(A)	2025年の必要病床数(※1)(B)	必要病床数との比較(A－B)	過不足状況(※2)
横浜	高度急性期	4,587	4,187	400	過剰
	急性期	10,817	10,687	130	過剰
	回復期	3,600	8,883	△ 5,283	
	慢性期	4,441	6,398	△ 1,957	
川崎北部	高度急性期	130	687	△ 557	
	急性期	3,042	1,808	1,234	過剰
	回復期	426	1,437	△ 1,011	
	慢性期	883	1,171	△ 288	
川崎南部	高度急性期	270	856	△ 586	
	急性期	3,650	2,327	1,323	過剰
	回復期	300	1,569	△ 1,269	
	慢性期	369	572	△ 203	
相模原	高度急性期	944	808	136	過剰
	急性期	2,304	2,305	△ 1	
	回復期	451	1,710	△ 1,259	
	慢性期	2,384	2,413	△ 29	
横須賀・三浦	高度急性期	1,493	780	713	過剰
	急性期	1,725	2,210	△ 485	
	回復期	991	1,913	△ 922	
	慢性期	1,042	1,227	△ 185	
湘南東部	高度急性期	604	539	65	過剰
	急性期	2,034	1,585	449	過剰
	回復期	644	1,303	△ 659	
	慢性期	1,009	1,150	△ 141	
湘南西部	高度急性期	1,201	752	449	過剰
	急性期	1,546	2,140	△ 594	
	回復期	603	1,404	△ 801	
	慢性期	1,181	1,205	△ 24	
県央	高度急性期	97	541	△ 444	
	急性期	3,196	2,071	1,125	過剰
	回復期	1,101	1,852	△ 751	
	慢性期	1,054	1,239	△ 185	
県西	高度急性期	374	269	105	過剰
	急性期	1,297	777	520	過剰
	回復期	275	863	△ 588	
	慢性期	1,116	772	344	過剰

※1：全国一律の方法により算出した2025年の医療需要の将来推計に基づく推計値であり、必ずしも将来の医療提供体制の変動要素をすべて勘案して算出したものではない。

※2：2022（令和4）年度病床機能報告に基づく各病床機能の病床数（A）と2025年の必要病床数（B）を比較して過不足の見込みを判断したものであり、必ずしも全ての地域の医療事情を勘案しているものではない。